生徒に見られるつまずき

　文字を使った式を利用して、論理的に説明することができない

つまずき解消に向けた指導のポイント

　同じ場面を表した文字式について、それぞれから読み取れる数量について話し合うことで、文字式が表す意味の理解を深め、文字式を利用して論理的に説明できるようにする

指導事例集ｐ．１７

１　学年・単元名　　第２学年　文字式の利用（数と式領域）

２　単元目標

　　文字式を利用して論理的に説明することができる。

３　単元の内容

　・文字式の利用

**・式による説明**

　・等式の変形

４　本時の目標

　　２つの奇数を、文字式で表すことができる。また、文字式の表し方の違いによって、説明にどのような違いが出るのかを理解することができる。

５　本時の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 生徒の活動 | 指導上の留意点  **太字：つまずきに対する手立て** |
| 導  入 | １　課題把握  　「文字式を利用して論理的に説明してみよう。」 | ・ホワイトボードを使用。 |
| 展開 | ２　問題把握  次の問いについて、考えてみよう  　２つの奇数の和が偶数となることを、文字式を用いて説明してみよう。  ３　見通しを持つ  ・奇数を文字式を用いて表す  　①(2n+1)+(2n+3)  　　②(2n+1)+(2m+1)　など  いろいろな数量を文字式で表してみよう。また、文字式が表す数量について説明してみよう。  ４　集団解決（グループ）  　・各班で、それぞれの文字式が表す数量に、どのような違いがあるのかを話し合う。  　・また、結果についても考察する。  参考：ワークシート  ５　集団解決（全体）  　・各班での考えを共有する。  　・数学用語を用いて、論理的に説明する | ・既習の文字式による表し方を想起させる。  ・クラス全体でできるだけ多くの考え方を発表させる。  ・初めの文字式を変形して、数量の意味を考えるように伝える。  ・違いについて数学用語を用いて、論理的に説明できるように促す。  **・各班の考えを比較させ、同じ式でも、読み取り方によって意味が異なることに気付かせる。** |
| まとめ | ６　まとめ  ・文字式を用いて論理的に説明することで、すべての奇数について説明できたことを理解させる。 | ・本時の学習内容をレポートにまとめるように指示する。 |